

博士論文要旨

学籍番号 1206001	氏名 梅津 美香
論文題目	看護学士課程における「働くことに関わる」教育の充実に関する研究
<p>目的 本研究の目的は、看護学士課程における「働くことに関わる」教育の現状を把握し基盤となる考え方を整理すると共に、「働くことに関わる」看護ケアニーズを明らかにすることを通じて、教育方法を吟味し、内容の体系化を検討することである。さらに、検討結果より、看護学士課程における「働くことに関わる」教育のあり方と意義を提言する。</p> <p>方法 研究は、1. シラバスの記載内容の確認および教員への聞き取りによる岐阜県立看護大学における「働くことに関わる」教育の現状把握、2. ケア対象者への労働生活インタビューの実施と看護実践について看護師が作成したレポートの分析による「働くことに関わる」看護ケアニーズの把握、3. 学士課程卒業生である新任期の看護師への聞き取りによる「働くことに関わる」看護実践の実状と困難および学士課程で受けた教育との関連の把握、4. 「働くことに関わる」教育の現状と基盤となる考え方に対する看護系大学の教員との意見交換の以上4つの方法から構成し、これらの結果を統合して、「働くことに関わる」教育のあり方と意義を考察した。</p> <p>結果</p> <ol style="list-style-type: none">「働くことに関わる」教育は、【人間にとって働くことの意味】【ケア対象者の健康との関連からみた働くこと】【ケア対象者の抱える健康課題・健康障害と働くことに関する支援の必要性と方法】【看護専門職として働くこと】という4つの教育内容で構成されていた。「働くことに関わる」看護ケアニーズは、【生涯を通じて働くことと健康の調和をはかる】【健康障害・治療により仕事上の支障や困難感がある】【働くことによって健康上の問題が生じる危険性がある】【働き続けるために仕事や職場の環境を健康に配慮し整える】【働きながら健康障害の自己管理を行う】【働きながら家族の療養生活を支える】であった。これらの看護ケアニーズを捉えるアセスメント能力育成の重要性が示唆された。新任期の看護師は、「働くことに関わる」看護ケアニーズを捉え実践できていたが、将来的な病状の悪化の見通しに基づく支援や職場の受け入れ態勢の調整などに困難を感じていた。学士課程で受けた教育で役立った内容は、実践研究として取り組んだ内容が示された。看護系大学の教員からは、対象が働くことを援助することと看護専門職として働くことの双方の教育の必要性、【人間にとって働くことの意味】の教育は看護学に限らず学習する内容である等の指摘があった。中核となる内容としては【看護専門職として働くこと】【ケア対象者の健康との関連からみた働くこと】の2通りの意見があった。 <p>考察 教育内容には学習の順序性があり、働くことの意味を基盤として、健康との関連から支援の必要性と方法へ進むことと並行して看護専門職として働くことの学習も進み、各々の内容が関連して深化すると考えられる。教育においては、働くことの具体的なイメージをもち働く場を理解できるように教育方法を工夫することと併せて、看護専門職として働くことへの適応を促すことを意図して実施することにより、対象が働くことを理解し「働くことに関わる」看護ケアニーズを捉え援助することと、看護専門職として働くことの双方を連動して学べるように関連付けることが重要である。</p> <p>このように「働くことに関わる」教育を充実させることは、人間にとって働くことの意味を理解し援助することと自らが看護専門職として働くことへの関心を高めることにつながり、看護実践の質の向上が期待できる。</p>	

平成20年度博士論文審査結果報告書

主査 小西美智子

副査 奥井幸子

副査 黒江ゆり子

平成20年度修士論文の審査及び最終試験を実施した結果は、次のとおりです。

記

学籍番号：1206001

氏名：梅津美香

審査結果： 1.合格 2.不合格 3.保留

[審査結果要旨]

(800字～1,000字)

本研究(題目：看護学士課程における「働くことに関わる」教育の充実に関する研究)は、看護学士課程における働くことに関わる教育の現状を把握し基盤となる考え方を整理するとともに、働くことに関わる看護ケアニーズを明らかにすることを通して教育方法を吟味し内容の体系化を検討することを目的とし、その検討結果により、「働くことに関わる」教育のあり方と意義を提言したものである。

素材とした看護大学の教育内容および教員への聞き取りの分析により、看護学士課程における「働くことに関わる」教育は、人間にとって働くことの意味、ケア対象者の健康との関連からみた働くこと、ケア対象者の抱える健康課題・健康障害と働くことに関する支援、および看護専門職として働くことの内容で構成されていることが確認された。これら抽出された教育内容を基盤に、働くことに関わる看護ケアニーズの分析、新任期の看護師からの聞き取り、および看護系大学の教員との討議を通してさらに検討を加えることによって、働くことに関わる教育内容には学習の順序性があり、働くことの意味を基盤として健康との関連から支援の必要性と方法へと進み、それと並行して専門職として働くことについての学習が進み、それぞれの内容が関連して学習が深化することを提示している。また、人間にとって働くことの意味を含めた教育の重要性について指摘している。これらの過程を的確にデータ化し分析しており、取り組み全体として評価できる。

看護学教育において看護の対象にとっての働くことをどのように位置づけ教育を行うかは極めて重要であり、本研究の取り組みは看護教育の質の向上に繋がる独創性のある研究と評価できる。

本研究科の倫理基準に基づいており、論旨に一貫性があり、論述も適切に記述されている。なお、審議会議のうち1回は当該学生が出席し、教員からの質問に回答し、かつ直接に指導を受けた。この過程を最終試験として合格とした。

以上のことから、博士論文と認め、合格とする。